

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	認知症ケア環境小委員会	主 査 名：森 一彦 就任年月：2007 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：布野修司
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2010 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1. 認知症ケア環境に関する専門性の蓄積と認知症ケア環境理論の構築 2. 認知症ケア分野と建築分野の架け橋となるケア環境づくりの実践的研究を牽引 3. 研究活動の成果に基づくセミナーや図書の出版、ウェブサイトの開設	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有(2006 年度新規 3 名) 森一彦(大阪市立大学) 赤木徹也(工学院大学) 石井敏(東北工業大学) 三浦研(大阪市立大学) 児玉桂子(日本社会事業大学) 古賀誉章(東京大学) 影山優子(日本社会事業大学) 隼田尚彦(北海道情報大学) 浜崎裕子(長崎国際大学) 鈴木義弘(大分大学) 絹川真理(岡山大学) 巖 爽(宮城学院女子大学) 松浦正悟(大和ハウス工業) 山田あすか(立命館大学) 山下真知子(武庫川女子大学) 以上 15 名	
設置 WG (WG 名：目的)	1. 認知症ケア環境理論の構築 WG：認知症ケア環境に関する内外文献の収集と研究成果の整理、認知症ケア環境の理論化に向けた公開研究会開催 2. 認知症ケア環境づくり実践研究 WG：施設環境づくり手法に関する検討会、施設環境づくり介入研究を実施	
2006 年度予算	308,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 認知症介護の専門家による研究会：その 1 (6/30) 参加者数 25 名 「施設環境とケア」岩尾貢さん(特別養護老人ホームサンライフたきの里施設長、龍谷大学教授) <資料：認知症の新しいケアー生活そのものをケアする、岩尾貢> 2. 認知症ケア環境理論に関する研究会 (9/7) 参加者数 20 名 「既往研究にみる認知症ケア環境の現在」明山泰之氏(正吉福祉会) + 赤木先生(工学院大学) <資料：認知症高齢者居住環境における研究体系について、明山泰之> 3. 認知症介護の専門家による研究会：その 2 (11/10) 参加者数 25 名 「小規模多機能をめぐって：実態と課題」竹内 健二(レインボー西宮) 平 真弓(光明の家) 大谷友比古(宝塚市介護保険課課長) <資料 1：宅老所から見た小規模多機能介護、平 真弓> <資料 2：宝塚市地域密着型サービスの状況、大谷友比古> 4. 認知症ケア実践のための施設環境づくりセミナー (12/2) 参加者数 200 名 (協賛：日本認知症ケア学会) <資料：施設環境づくりプログラムによる実践と効果の評価>
大会研究集会	

<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会として継続的に取り組んでいる認知症高齢者への施設環境づくりセミナーは、日本認知症ケア学会や介護専門誌に掲載され、より良いケア環境づくりを広くアピールした。 2. 各委員はケア環境の専門家として、各自治体の研修会・施設計画・審議会等で活発な発言をしている。
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>本小委員会は、認知症高齢者にふさわしいケア環境の構築に向けて、ケア環境の理論の体系化と実践的研究の牽引を実行して、建築とケアの両分野の架け橋として以下のような成果を上げた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケア環境に関する専門性の蓄積とケア環境理論の構築 認知症ケア環境理論の構築にむけて、日本における既往研究を収集整理すると共に、認知症ケア環境理論に関する研究会を開催し、体系化のありかたについて討議し、現状と課題が明らかになった。 2. 認知症介護の専門家からのケア環境にかかわるニーズ把握 高齢者施設・グループホーム・小規模多機能サービスなど認知症介護にかかわる専門家との研究会を行い、認知症ケア環境の専門性に関するケア側からのニーズを把握することが出来た。 3. 認知症ケア環境づくりの実践的研究とその成果の普及 高齢者施設ケアが身体的ケアモデルから認知症ケアモデルへと転換するのに対して、既存施設における大規模な改修および現場のケアスタッフが取り入れることの出来る小規模な施設環境づくりに関する実践的研究を継続的に実施すると共に、その研究成果を基にした認知症ケア専門家に向けたセミナー実施し、今日の高い社会的要請に応えることが出来た。 3. 建築とケア両分野の専門家の協力体制 認知症ケア学会との共同開催セミナーには、2004年より継続して実施しており、2006年200名で、延べ560名に及び参加者を得て、社会的要請に応えている。さらに日本社会事業大学、工学院大学、和歌山大学、大阪市立大学など日本の各地の大学を中心に認知症ケア環境づくりの実践およびその報告研究会を実施するなど、建築とケア両分野が連携して認知症ケア環境について取り組む体制づくりのための基礎ができた。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケア環境研究の体系化と海外状況の収集 本年行った日本における認知症ケア環境の研究状況を基に、体系化を進めると共に、海外での認知症ケア環境に関する研究動向を把握する必要がある。 2. 地域の先進的事例の収集 小委員会が全国を網羅している特徴を生かし、各地で活躍する委員の地域に密着した研究・実践活動を取り上げ、固有の認知症ケア環境の事例収集に勤める必要がある。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。